

2022年 春 どうそ 満
議員活動報告



発行責任者 道祖 満
飯塚市鯉田2525-44
TEL 25-3280

つくります!
new いづがライフ
飯塚市議会議員 どうそ 道祖 満

折りとらば惜しげにもあるか桜花

いざ宿かりて散るまでは見む

(よみ人知らず)

皆様、コロナウイルス感染症が収まらない中、どの様にお過ごしでしょうか。

わたしは、2月6日に3回目のコロナウイルスワクチン接種を、市の体育館で行われた集団接種で受けて来ました。

接種後、体温が38度を越す発熱があり体の節々が痛くなりましたが、接種後の2日目からは平常に戻りました。(3月19日の西日本新聞の報道では、「副反応での発熱した人は抗体の量が高いとする研究結果が九州大学病院の研究グループから発表された。」とありましたので、抗体量の検査はしていませんが、発熱したことで少し安心をしています。ただし研究の対象は米ファイザー製ワクチンで、私の接種したワクチンは3回ともモデルナ製です。)

世界では、令和4年2月24日にロシアがウクライナ侵攻を開始した事件。

国内では、令和4年3月16日午後11時半過ぎに発生した震度6強の福島県での地震など、何かと市民生活に影響が出てきそうな事が起きています。

今後の状況が気になるところです。

飯塚市議会では、令和4年2月22日より3月18日まで、3月定例会市議会が開催されました。

今回の定例会市議会では、「防災に関して」一般質問を行い、市の防災についての取組みについて確認を行いました。

「市議会議員の定数を24人から28人に戻すことを求める。」請願については、反対致しました。

(採決の前の討論において反対の意見を述べましたが、残念なことに、議長を除く27人の議員中、賛成13人・反対12人・棄権2人で請願が採択されました。)

令和4年3月定例市議会が開催されました。

令和4年2月22日より3月18日まで令和4年3月定例市議会が開催されました。

片峯市長の令和4年度の施政方針は、「飯塚市の魅力を多くの人に広く発信する年」と位置付け、「支え合い、助け合い、愛がつながる飯塚」の実現に取り組んでいくと述べられていました。

令和4年度の飯塚市一般会計予算総額は、809億4,600万円で昨年度より53億1,900万円増額された予算となっています。(予算規模を拡大する主な要因は、ふるさと応援寄附金に係る歳出の経費や基金積立金で、58億4,987万4千円増、学校給食事業特別会計廃止に伴い一般会計に計上する歳出予算5億1,734万4千円増の合計63億5,559万5千円増となっています。)

財政調整基金繰入金予算額は、昨年度より2億1,553万5千円少ない31億2,618万1千円となっています。

歳出予算の主なものは次の通りです。

○新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスワクチン接種事業4億5,925万7千円、保育所・認定こども園等新型コロナウイルス感染症拡大防止事業1,510万円、災害時避難所感染症防止対策物品購入事業5,854万3千円、地域活性化応援券発行事業2億2,555万3千円、事業継続応援貸付事業1億5,306万2千円、再就職応援事業4,912万1千円、ウィズコロナ対応事業者支援事業IT導入等応援補助金1,751万5千円等。

○企業誘致・産業創出・雇用対策

企業誘致用適地調査事業1,517万4千円、企業立地促進補助事業6,556万1千円、地域雇用活性化推進事業3,719万5千円等。

○移住・定住の促進

住宅改修補助事業2,004万5千円、住宅取得移住奨励事業7,002万8千円、戸建て中古住宅取得補助事業2,200万6千円、相田公営住宅建替事業(設計委託料・造成工事等)1億4,967万5千円等。

○スポーツ関係

体育館等建設事業10億7,401万2千円、市民公園テニスコート施設整備事業4億409万2千円、グラウンドゴルフ場整備事業5,165万9千円等。

○オンライン授業・体験型学習など教育関係

小中学校教育用情報機器整備事業9,404万1千円、小中学校ICT教育推進事業6,479万円等。

○文化振興・生涯学習施設整備

文化会館(コスモスコモン)改修事業8億4,347万6千円、嘉穂劇場管理運営・保存

整備事業 742 万 4 千円、古代山城サミット開催事業 287 万 5 千円、ちくほ図書館整備事業 9,359 万 7 千円、子ども図書館整備事業 25 万 5 千円等。

○菰田・堀池地区活性化事業

旧卸売市場周辺整備事業 5 億 2,019 万 7 千円、飯塚駅周辺整備事業 1 億 1,651 万 4 千円、都市計画公園西菰田公園整備事業 5,760 万円等。

○防災・減災対策

鯉田地区遊水池新設事業 1 億 5,581 万 7 千円、下三緒排水ポンプ場新設事業 3 億 3,107 万 7 千円、熊添川流域調整池新設事業 3,660 万円、庄司川流域浸水対策事業 1,650 万円等。

条例議案の主なものは次のとおりです。

○押印の見直しに伴う関係条例の整備に関する条例

行政請手続きにおける押印の見直しに伴い、飯塚市議会政務活動費の交付に関する条例、飯塚市職員のサービスの宣誓に関する条例、飯塚市火入れに関する条例を整備するもの。令和 4 年 4 月 1 日から施行

○飯塚市事務分掌条例の一部を改正する条例

組織の再編に伴い、総務部の「組織及び事務能率に関すること」「地域情報化」に係る事務を行政経営部へ再編するもの。令和 4 年 4 月 1 日から施行

○飯塚市職員定数条例の一部を改正する条例

組織の再編に伴い、市長の事務部局職員を 784 人から 787 人に変更、教育委員会の事務局・教育機関職員を 90 人から 87 人に変更するもの。令和 4 年 4 月 1 日から施行

○控訴事件に係る和解（入会権確認等請求控訴事件）

鹿毛馬地区の入会権確認等請求控訴事件に対し、裁判所から和解勧告がなされ、示された和解条件に双方が合意し、和解するもの。

契約の締結

○競走場メインスタンド整備工事

飯塚オートレース場のメインスタンド整備工事を、契約金額 25 億 2,670 万円で松尾建設株式会社北九州支店と締結するもの。

人事議案として

○教育委員会委員 1 名の任命につき議会の同意を求めること

○農業委員会委員 19 名の任命につき議会の同意を求めること

○監査委員 1 名の選任につき議会の同意を求めること

○公平委員会委員 1 名の選任につき議会の同意を求めること

○人権擁護委員 2 名の推薦につき議会の意見を求めること

○専決処分の報告（交通事故に係る損害賠償の額を定めること及びこれに伴う和解）・（市営住宅の管理上必要な訴えの提起）以上の内容が審議されました。

「防災に関して」一般質問を行いました。

飯塚市では、防災に関して民間の各団体等と防災協定を結んでいます。災害時ごとの様に機能するのか、市の体制・取組みについて質しました。

質問 飯塚市防災計画が平成 26 年 6 月に策定されていますがその目的についてはどうなっていますか。

答弁 災害対策基本法第 42 条の規定に基づき策定し、市民が自らを災害から守る自助、地域社会がお互いを守る共助、国や地方自治体等の施策としての公助の適切な役割分担に基づく防災協働社会の実現により、市民福祉の確保に万全を期することを目的にしている。

質問 毎年改正が行われ最終改正が令和 3 年 6 月となっていますが、これまでの改正の主なものはどうなっていますか。

答弁 災害基本法の改正、関係法令の改正、最近の災害対応の教訓を踏まえ修正、市の組織再編が改正の主なものとなっている。

質問 飯塚市防災計画では、第 2 章に「災害予防計画」について述べられていますが、その中で第 2 節に災害に強い組織・ひとづくりとして、第 1 の防災組織の整備から、第 6 の調査・連携についての取り組みが記載されていますが、各項目の進捗状況はどうなっていますか。

答弁 第 1 の防災組織の整備については、関係機関と平常時から連携をしながら体制強化を図っている。第 2 の自主防災活動の推進については、自治会への防災研修や自主防災活動リーダーの人材養成に取り組んでいる。第 3 の災害ボランティア活動の支援体制の整備については、社会福祉協議会と連携し、災害時の円滑なボランティア受入れ体制の構築を図っている。第 4 の防災知識の普及については、職員研修、自治会への防災研修を実施し、小中学校において教員、児童生徒への防災教育に取り組んでいる。第 5 の防災訓練については、関係機関も参加して実施している総合防災訓練は未実施となっているが、図上訓練を実施し関係機関との連携を確認している。第 6 の調査・連携については、国、県が実施する研修等に参加し情報の共有、連携を密にしている。

質問 飯塚市では、災害時における対応に関して多くの団体等と連携協定を結ばれていますが、災害時の連携協定はどうなっていますか。

答弁 県内市町村との災害時の相互応援協定が 9 件、避難者への生活必需節に関する協定が 12 件、難所生活に必要な資機材に関する協定が 2 件、民間施設の避難所利用に関する協定が 8 件等、多種にわたる災害協定を締結している。

質問 災害協定を結んでいる団体、個人、会社の担当者の確認は出来ていますか。連絡体制はどうなっていますか。

答弁 生活必需物資に関する協定締結企業の一部は確認出来ていますが、全ての協定締結企業との担当者の確認や事前調整は出来ていない。

質問 出来ていないということですが、いざという時にスムーズに動くのですか。

答弁 指摘のとおり、相手先窓口との取り決めはしているが、どの様に動くのか事前の協議等は行っていない状況で、市として把握は出来ていない。

質問 それの問題だと思い質問をしていますが、風水災害時の緊急対策に関する協定書があり、地区ごとに協定会社の一覧表がありますが、何かあった時の指示・命令はどうなっていますか。

答弁 必要が生じた時、それぞれの組織の市職員が協定先に連絡することは想定しているが、現在、事前に検討はしていない。

質問 「総合防災訓練（会場型訓練、広域連携訓練、地域総ぐるみ訓練等）を実施するものとする。」されていますが、これまでの実施結果は、関係機関の消防、警察、自衛隊、医療等だと思いますが、協定を締結している企業は参加していますか。

答弁 協定締結の企業については参加していません。

質問 協定を締結している企業は、日頃から災害対応訓練に参加していません。いざという時に協定を締結している企業へ支援依頼をお願いしても動くのですか。どの様に支援をお願いするのですか。日頃から打ち合わせをしておかないといざという時に動かないのではないかと思います。市はどう思いますか。

答弁 今後は、災害協定締結企業との連携が強化出来るように、訓練実施について検討していきたいと考えている。

質問 災害時に備えて、避難対象地域、避難対象者は想定されていると思いますがどうなっていますか。

答弁 避難対象地域・避難対象者については、12 地区交流センターを基本単位としている。その地区全員に対して避難情報等の発令をしている。地域により浸水想定区域や土砂災害警戒区域など、災害リスクが異なるため、小学校単位で避難情報を発令するケースがある。

最近の身の回りで起きている各災害の報道を見ていると、災害に対応するには、自助・共助・公助の観点から取組む必要があることを強く感じます。

飯塚市では、防災計画を作成して市民の安全確保に努めていますが、公助の部分が多い防災計画になっている様に感じました。

共助の観点から、民間の各団体・企業・個人との災害時の支援協定を締結していますが、折角、締結した内容を上手く機能させるための取組みが遅れていることを指摘して、今後、検討することを要望致しました。

今後開催されます防災研修・防災訓練には積極的に参加して自助の力を付けていこうと思います。

飯塚市議会の議員の定数を定める条例の一部改正を求める請願について反対致しました。

令和3年9月定例会市議会に、「飯塚市議会議員の定数を24人から28人に戻すことを求める。」請願が提出され、令和4年の3月定例会市議会まで議会運営委員会で審査され3月定例会市議会最終日の3月18日に、この請願についての採決が行われ、議長を除く27人中、賛成13人・反対12人・棄権2人で可決されました。

飯塚市議会の議員定数については、令和元年6月定例会市議会で、現行の28人から4人減らして24人とすることが、議長を除く27人中、賛成21人・反対6人で可決されていましたが、令和5年4月に行われる飯塚市議会議員選挙を控えて9人の議員が考えを翻しました。

請願では、「令和元年第3回定例会（2019年7月4日）最終本会議で議員提出議案として提出された飯塚市議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例が賛成多数で可決され、議員定数を現行の28人から4人減らして24人とすることが決まりました。」その理由が、「議員が4人減ることによって議員報酬などの削減につながる」という財政削減の点からだけの提案で、そして提案されたその日に、十分な議論の時間が保証されないまま可決された。とされていました。

わたしは、令和元年4月に執行されました飯塚市議会議員選挙で、飯塚市の将来人口と財政見通しを市民の皆様を示して、議員定数を28人から4人削減し24人とすることを選挙公約として掲げて現在の市議会に議員として選出されました。

改選後、令和元年6月13日(木)開催の代表者会議に、議員定数削減の条例案を提出することの趣旨説明を行いました。(議員3名で提案)

令和元年6月20日付けで、議長へ議員5名で議員提出議案として提出いたしました。

令和元年6月26日(水)開催の議会運営委員会で議員提出議案としての取り扱いについて諮られました。

令和元年7月4日(木)開催の本会議で質疑を受けたのち賛成多数で可決されました。

議員が市の財政状況を考え、議員定数を削減することにより市の経費削減に取り組むことは市民の皆様には理解して頂けないのでしょうか。

この請願は令和3年9月に提出されていますが、飯塚市では令和3年4月現在の財政見通しを公開しています。

市の財政については、現在の飯塚市は平成18年に1市4町が合併してできましたが、合併特例法による国からの普通交付税については、合併前の1市4町に交付されていた額が10年間保証され11年目の平成28年度から交付税は5年間をかけて削減されていき、合併後16年目の令和3年度からは一本算定となり交付税の加算額は無くなります。

具体的には、合併当初から 10 年間は毎年 20 億円を超える加算額がありましたが、11 年目の平成 28 年度には約 15 億円となり、15 年目の令和 2 年度では約 2 億 7 千万円となり、令和 3 年度からは合併による普通交付税の加算額は 0 円となります。

飯塚市の平成 18 年度から令和 2 年度までの 15 年間の義務的経費を見てみると、平成 18 年度では約 322 億円、令和 2 年度では約 370 億円となっています。

義務的経費の中で職員等の人件費は職員定数の減などで約 100 億円から約 82.5 億円と減少してきています。

また、扶助費は、約 148.5 億円から約 218.3 億円となっています。(扶助費の大きな伸びが見られます。)

投資的経費については平成 18 年度では約 67.4 億円で、最高額は合併 11 年目の平成 28 年度の約 168.7 億円で、令和 2 年度では 61.5 億円となっています。

令和 3 年 4 月提出の財政見通しでは、市の貯金と言える「財政調整基金及び減債基金」の年度末基金残高の合計が示されていますが、令和 2 年度決算見込みでは、約 152.8 億円あったものが、令和 4 年度推計では約 40 億円減少して約 111.4 億円となり、8 年後の令和 12 年度では約 39.2 億円(参考値)まで減少することが予測されるとしています。

市の人口の推移ですが、平成 27 年(2015 年)の国勢調査では、12 万 9,146 人から令和 2 年度(2020 年)12 万 6,364 人と 5 年間で 2,782 人減少しています。

1 年間に約 556 人減少していることとなりますが、現在、国からの交付税は一人当たり約 9.7 万円ありますので、年間約 5,400 万円の国からの交付税が削減されます。

令和 12 年度の人口推計値は 11 万 9,678 人と、今後も人口減少が予想されています。

この様な市の財政状況の中で、市議会議員定数を 28 人から 24 人に 4 人削減すると、削減効果の金額は年間約 3,900 万円、4 年間で約 1 億 5,600 万円と試算しています。

今回の請願では、「議員が減ることで多様な意見を議会に届けることが難しくなると危惧している。」と言われていますが、令和 3 年 10 月 25 日の議会運営委員会に提出されている資料「市議会議員定数に関する調査結果・令和 2 年 12 月 31 日現在(全国市議会議長会令和 3 年 8 月)」では、人口 10 万人以上・13 万人以下の市は、全国で 65 市あり、その内 36 市が議員定数 24 人以下となっていますが、この 36 市では、多様な意見が議会に届けられていないのでしょうか。

大阪府大東市	人口 11 万 9,452 人	議員定数 17 人	女性 3 人・男性 14 人
福岡県大牟田市	人口 11 万 1,926 人	議員定数 24 人	女性 6 人・男性 18 人
福岡県春日市	人口 11 万 3,313 人	議員定数 20 人	女性 5 人・男性 15 人
福岡県筑紫野市	人口 10 万 4,625 人	議員定数 22 人	女性 3 人・男性 19 人
福岡県糸島市	人口 10 万 2,523 人	議員定数 20 人	女性 3 人・男性 17 人
福岡県大野城市	人口 10 万 1,905 人	議員定数 20 人	女性 5 人・男性 15 人

(参考の為、人口と議員定数と男女議員構成を調べてみました。)

学校と地域との連携について

令和4年1月31日開催の飯塚市総合教育会議（市長・教育長・教育委員4名で構成）の協議・調整事項に「学校と地域との連携について」が、議題として取上げられ、生涯学習課長から地域創生や地域連携について、学校教育課長から学校側の実践的な取組みについてそれぞれ説明が行われました。

この説明内容は、令和3年12月定例市議会で行った一般質問「地域とともにある学校について」で、市の取組みが国の方針と乖離していることを指摘致しましたが、指摘を受けて、改めて、文部科学省の推進する「次世代の学校・地域」創生プランについて取組む考えを示したものとなっています。

市では、令和4年度の「飯塚市教育施策要綱」にも取上げて実践されていくと思いますが、市の取組みと国の方針との整合性について、確認を今後行っていきたいと考えています。

新体育館の建設が進んでいます。

新体育館の建設が、令和5年4月のオープンを目指して進んでいます。

あわせて令和4年度には、新体育館横にありますテニスコートの改修が行われます。

また、新体育館前にあります公園については、これまで草木の手入れが行われていませんでしたが、新体育館建設に伴い、生茂った立木等の伐採が行われ、見通しの良い、明るい公園に向けて整備が行われています。

今後も、新体育館の南側の公園についても整備を行うよう要望しています。



（新体育館の基礎部分の施行が進んでいます。令和4年3月27日撮影）